

2025年度リニモ沿線地域づくり会議 概要

1 開催日時等

日 時：2025年2月13日（金） 午前10時から午前11時30分まで
場 所：地球市民交流センター 体験学習室2・3
出席者：委員5名、オブザーバー3名、事務局13名

2 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事

議題1 リニモの利用者数について

議題2 リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況について（県・市）

議題3 主要施策の進捗状況

【あいさつ】

○リニア・交通対策監

本日は大変お忙しい中、「2025年度リニモ沿線地域づくり会議」にご出席いただき、御礼申し上げます。2025年は、リニモが開業して20年目という節目の年であった。リニモは、愛知万博の開幕を目前に控える2005年3月6日に開業し、万博期間中はメインアクセスとしてのみならず、動くパビリオンとして万博を大いに盛り上げたと記憶している。万博終了後、地域が一体となって沿線のまちづくりに取り組み、長久手古戦場駅や公園西駅では、大型商業施設を中心とした区画整理事業が行われるなど、沿線の開発が進み、利用者を増やしてきた。さらに、愛・地球博記念公園内に「ジブリパーク」が開園したことで、地域外の方のご利用も増え、昨年度の利用者数は、万博終了後初めて1,000万人を超え、万博直後の約2倍にまでなった。これは、「リニモ沿線地域づくり構想」及び「重点プラン」に基づき、関係者が連携して、ハード・ソフト両面で、着実に取組を積み重ねてきたことによるものと認識をしている。これまで取組を牽引してきた構想及び重点プランは、今年度を持って満了となるが、プランに掲げる「何度も訪れたい沿線」、「住み続けたい沿線」、「誰もが使いやすい交通の実現」は、引き続き、この地域にとって重要なキーワードであり、関係者の皆さま方と一緒に取組を進めていくことが重要であると考えている。本日の会議では、忌憚のないご意見・ご提案をいただきたくお願い申し上げます。

資料1～2について、愛知高速交通株式会社及び事務局（愛知県）から説明した。

【議題1及び議題2（県）についての委員・事務局等発言要旨】

○亀倉委員

リニモ20周年感謝祭では約5,000人の来場者があったとのことだが、県交通対策課としてこのイベントをどのように評価しているのか。

→愛知県

かなり多くの方に参加していただけたのではないかと考えている。資料の実施内容にもあるが、車両基地特別公開のリニモ洗車機通過体験や手押し体験について整理券を配布していたが、数分でなく

なったりするなど多くの方に楽しみにしていただけていたと感じている。そのため、このようなイベントが今後も開催できたらと考えている。

○梶原委員

リニフェスには、ツーリズムとよたも出展させていただいた。その際に、Webの会員制サービス「いこまるとよた」で周知をした。リニフェスのイベント会場では、若いご夫婦やお子様連れも多く、とても盛況で多くの方に豊田市の観光についても興味を持っていただけたのではないかと思う。

○村田委員

リニモの乗客が増えていることについて、喜ばしく思う。そういった中で、一つ一つのイベントで利用者を積み上げていくという意味では効果があるとは思いますが、他への乗り継ぎだとか周辺への影響という部分で、今後もいろんな取組を引き続き続けていくとは思いますが、ぜひ継続して色々な取組をしていただければと思う。

→愛知県

県と沿線市では、「東部丘陵線連絡協議会」を設置し、これまでも県と沿線市と一緒に取組を進めてきたところである。県は、市町村をつなぐ役割を担っていると考えている。今後も引き続き協議会を中心に、取り組んでいく。

○古賀委員

あいちウィークでも配布されていた缶バッジは、長久手市の公共交通のイベントにも提供していただき、大変好評だった。イベントの参加者からは、「かわいい」と大人気だったため、今後もこのようなノベルティがあると、子ども達などにもリニモについて広がるのかなと思う。

また、先日リニモに子ども達と乗車した際に、一番前の席を取り合い、のぞき込んでいたため、リニモ自体が魅力的なコンテンツだと思った。移動手段ではなく、エンタメとしてリニモを利用されている方がどれだけいるのか気になった。

→愛知高速交通株式会社

楽しむために乗る場合と通常の移動の場合と券種は変わらないため、中々データとしてはないが、晴れた日はとても景色がいいので相当数の方が楽しんでいらっしゃると思う。それを楽しむようなイベントをまた考えていきたいと思っている。

→瀬口委員長

かつて名古屋市観光コンベンションセンターが夜の観光ツアーがあったような気がするが、それは移動ではなく、観光として楽しんでもらえるものだと思う。

→愛知高速交通株式会社

昨年、ナイトツアーを開催した。リニモが走っていない深夜にリニモの軌道を歩くイベントである。初めて開催したため、安全性なども考慮し、3組6名限定とした。

→愛知高速交通株式会社

応募が100名ほどあった。応募方法は、往復はがきのみでネットからの応募はあえてやらなかった。イベント後のアンケートでは、満足度は100%だったため、弊社としては大成功だったと考えている。

○瀬口委員長

中央線鶴舞駅の周りを見てみると「STATION Ai」と書いてあった。以前からリニモの駅名が気になっており、主要な施設名を表示できないか。恐らく JR 東海は、副駅名を有償で行っていると思う。主要な施設名が駅のホームに書いてあることは、利用者にとって非常に便利である。リニモ沿線の主要施設について、駅名の横に近隣施設の名前が書いてあるととても親切だと思う。利用者を増やすことを考えるときにそのようなことも視野に入れてもらえると利便性につながるのではないかと思う。

(本日欠席の清水委員、松宮委員からのコメント) (代読)

→愛知県

○清水委員

MaaS を活用していく上では、コミュニティバスと地域の交通についても含めて一緒に進めていけたらよい。

○松宮委員

沿線情報は地域に訪れた時ではなく、訪れる前に案内する必要がある。また、トヨタ博物館やモリコロパークなど、リニモの駅から歩ける場所にしか行かない人が多く、もったいない。周遊観光をどう進めていくか、コミュニティバスの活用も含めて考える必要がある。

資料 3～7 について事務局（沿線市）、資料 8 について事務局（愛知県）から説明した。

【議題 2（市）・議題 3 についての委員・事務局等発言要旨】

○古賀委員

長久手から香嵐溪に行くときには道が混んでおり、断念したという声をよく聞くが、香嵐溪へのシャトルバスは、優先で道路を通ることができるのか。混んでいるときもスムーズに香嵐溪に行けるのか。

→豊田市

日によって渋滞状況がまちまちだが、紅葉のピーク時は渋滞が 7 キロぐらいになることもある。しかし、バス専用レーンのようなものはないため、路線バスも普段なら 1 時間程度で行けるところが 2 時間かかってしまう。本腰を入れて対策するため庁内で動いているところなので、大変ご不便をおかけしているが、ご理解いただければと思う。

→瀬口委員長

香嵐溪は、紅葉シーズンになると交通渋滞のため、近づけないというイメージがある。逆に言うと観光地として整備したことで、季節によってたくさんの人を呼べるようになった。つまり、観光整備自体は、効果があったといえるため、その効果を台無しにしないようにきちんと他の観点からも整備できるとよい。

○亀倉委員

各市が多く取組をしているが、これらの取組を、イベントという視点で見ると単発で終了しやすい。これらの取組について、ゴールを見据えながら、どのように横に繋げていくかという視点も必要である。そういった視点で、県としてやっていることはあるか。

→愛知県

例えば、具体的な取組として、「Linimo でグルメ&おでかけ」という情報発信のホームページを作

成しているが、本サイトは、沿線市で行っているイベントやそれぞれの観光地を一堂に紹介し、ジブリパークに来る前にご覧いただけるよう作成したものである。また、リニモウォーキングなど、沿線市で行われるイベント等と一緒に開催している。こうした取組により、リニモの利用を促すと同時に、沿線市にも多くの人に訪れてもらうきっかけとなればと考えている。

○村田委員

長久手市の取組の紹介で、重点戦略 1.3.4 と記載されているが、2 はどうなっているのか。

重点戦略 1 でイベント等を開催とのことだが、大事なのはジブリパークに来たお客さんをいかに長久手市内に滞留させるのが重要な課題だと思う。その課題にどのようにつながっているのか。

→長久手市

重点戦略 2 は「イノベーションの促進、次世代産業の育成」であり、今回は趣旨が異なるため外している。

おっしゃるとおり、ジブリパークに来るお客さんを市内にどのように取り込んでいくかというのは、市の課題である。宿泊施設がないため、名古屋からリニモに乗ってジブリパークに行き、そのまま名古屋に戻ってしまうというのは、確認できている。そういったところで、市内のソフト事業として、体験型の観光に結び付けていくというのを観光部署と共に進めているところである。

→愛知高速交通株式会社

私は、長久手市の観光交流協会の理事もやっている。長久手市の資料の 1 番上にある「長久手プチトリップマップ」があるが、これは何とかビジュアルが目に見える形で長久手の名物やグルメなどを知って欲しいとのことで作成したものである。実際に、リニモの中吊りにも掲示している。長久手観光交流協会でも期待しているのが重点戦略の 3 にある「長久手古戦場記念館」である。かなり期待を寄せており、何かイベントができないかと考えている。3 月以降には、いろんなイベントが控えているので、引き続き長久手市さんと頑張っていきたいと考えている。

→瀬口委員長

日進市や瀬戸市では、ラッピングバスを行っているが、ラッピングバスの宣伝効果はかなり大きいと思う。新聞やテレビの宣伝効果も確かに大きいですが、町を歩いている人の目に触れるということが重要である。また、長久手市と日進市の資料にもあったが、大学との連携での動画製作など、学生が何か課題を製作しようとするときに、実際の場所や資料があると非常にリアリティをもって製作することができる。地域と大学が連携すると教育効果も上がると思うので、他の市もぜひそのような取組を拡大してほしい。

○村田委員

先ほど、古戦場公園が再整備されていると説明があったが、日進市の旧市川家住宅もそうだが、イメージのつけ方が重要になってくると思う。例えば、「となりのトトロ」というジブリ作品があって、その中に出てくる「サツキとメイの家」がジブリパーク内にある。「サツキとメイの家」がある中で、それに関連するものとして「カンタの家」というのを、古民家などを利用してオマージュするようなイメージ付けをすると、ジブリ作品好きな人にとっては、ひきつける要因になると思う。ただ、ジブリ的には NG なため、それをどうイメージ付けしていくか、オマージュさせていくかというところは戦略が必要になってくると思うので、ぜひ工夫していただけるといいと思う。

【プラン満了に伴う各委員よりコメント】

○亀倉委員

本日で、交通対策課としてのリニモ沿線地域づくりは一つの区切りを迎えるのに際し、これまでの成果、今後へのリスク・将来ビジョン、最後に提言を申し上げる。成果として、まず申し上げたいのは、この数年間の取り組みは、構想を具体化にまで押し上げたという意味で、非常に高い到達点にあるということである。重点プランに掲げられた多くの事業が実施段階に入り、ジブリパークなどを契機とした波及効果は、リニモ利用増へと着実につながりつつある。リニモは、今や沿線都市圏の骨格交通へと位置づけを高めつつある。デジタルデータ収集やインフラが高度に整備され、MaaS や自動運転、ロボット実証などを通じて、この沿線は実証の空間へと進化し始めていると成果を評価している。しかし同時に、次の段階を見据える必要がある。これまでのリニモ利用はジブリや万博記念行事といったイベント主導で進んできた。だが、その中長期的な効果を見据えたときに、リニモ利用は恒常的・安定的に定着するのか。豊田市を中心に進められてきた実証の取り組みは制度としての接続や定着にまで至るのか。さらに、そのために必要な自治体間の連携が持続可能な形で維持されるのか。東部丘陵線連絡協議会が果たす役割がこれまで以上に大事になってくると思う。その意味で、これから問われるのは、「波及型」から「構造定着型」へのシステム転換ではないかと考えられる。最後に提言として、まず、この沿線で生まれた成果をしっかりと構造化することが最優先だと考える。具体的には、交通利用の質的分析を通じて利用構造を把握し、MaaS や AI を単なる実証で終わらせず制度に埋め込むことで、沿線を恒常的な実証のための回廊として位置づけることができるようになることを提言する。すなわち、沿線全体を一つの広域都市として捉え、グルメだけでなく、歴史文化、自然といった多様な資源を交通というキーワードにまとめ上げていくことが、次の発展段階の鍵になると考えている。そして、その次の段階として、視野をリニモ沿線の外に広げる必要がある。Station Ai や Tongali をはじめとする起業プラットフォーム、大学群、研究機関が近接するこのエリアは、交通・観光・環境・イノベーションが複雑に交差する、愛知県が戦略的に推進してきた極めて重要な空間である。つまり、もしもリニモ沿線を実証都市圏として確立することができれば、そのモデルは愛知県全体へ、さらには中部地域全体へと波及しようと考えている。本日の区切りを終了とせず、次のさらなる発展に向けての戦略的な助走とすることを提言する。これまで築いてきた成果を、まずはこの沿線で確実に定着させ、その上で、県全体、そして中部地域の発展へとつなげていく。その視点を全体で共有できることを切に願っている。

○村田委員

この会議に参加させていただいたことで自身の勉強にもなり、また、委員長を始め、多岐にわたる専門の先生方からいろんなご意見、アドバイスがあり、非常に有意義な会議であったと思っている。この会議（プラン）では、方向性としてキーワードという形で3つ掲げ、それをこの地域の目標としながら進めていくこととしていると思うが、一番ベースとなるものは、2番目の「住み続けたいくなる沿線」だと思う。こうした地域公共交通機関が維持・存続していくためには、地域自体が持続可能でないといけない。地域づくりの方向性が少しでも間違えると影響が出る。愛知県は、過去にピーチライナーで痛い経験をしているが、そうならないように、地域として住み続けたいくなるようにどう維持していくのが非常に重要になってくる。現状、観光客やインバウンドが増えてきていることはいいことだが、住み続けたいくなるためには、愛・地球博の理念を地域全体としてどう引き継いでいくのかや、ジブリパークのコンセプト・イメージをプラスにして、この地域の旗印にできるかどうかといったところが、この地域がより魅力的で持続可能な住み続けられるまちになるかの鍵になってくる。リ

リニモについては、県の担当が交通対策課であるため、どうしても交通に偏りがちだが、まちづくりと交通はセットである。そういった意味で、沿線市のまちづくりの部分では、ひとつひとつのコンセプトがまちの中にどう形になっているのかの確認を今後とも続けていってほしい。特に、今後も区画整理を始め、市街地開発がされていくため、そういった中で自然やSDGsに沿ったような暮らしのあり方が果たしてあるのか、暮らし方も含めてデザインするまちづくりの在り方をぜひ考えてほしい。県には、ぜひ全体を包括しながら、その方向性が逸れない地域になっていくように調整していく役割を果たしていってほしい。ここで終わりではなく、ここがまず一つの区切りではあり、新たなスタートになったらと思う。

○梶原委員

豊田の観光振興を進める上で、この場で学んだ視点や議論を今後の取り組みにもしっかりと活かして行きたいと感じている。リニモは全国的にも珍しい乗り物であり、交通手段としてだけではなく、観光やお出かけのきっかけになるものだと思うので、本構想を通じて積み重ねられた知見が、今後の沿線地域の連携や魅力発信につながることを期待している。

○古賀委員

この会議に参加する上で、事前にしっかりと丁寧にご説明いただくので、当日何か発言することもあまりなかったが、本当に学びの多い機会をいただいて嬉しく思っている。リニモは、本当に魅力的で移動手段としてだけではなく、レジャーとして親子で楽しませていただいている。そういったところを活用しながら長久手市民として何ができるのだろうかとかこれからも考えていきたい。行政と市民と力を合わせて魅力発信をもう少し頑張っていきたい。村田委員より住み続けたくなるまちについて話があったが、市民からするとただ素敵なまちというのは、住み続けられなくて、福祉的なことだったり、小さなこと、交通、まちづくりだけではなくて、いろんなことに関わっているものが整ってこないと住み続けたくないまちになってしまう。色んなことを横断的に整えていかないといけないということが勉強になった。

(本日欠席の清水委員、松宮委員からのコメント) (代読)

→愛知県

○清水委員

2012年から10年以上にわたり会議に参加してきたが、コロナ禍における一時的な減少はあったものの、基本的には乗客数が右肩上がり増加してきたことは、関係自治体の皆さんの努力の成果であると考えている。会議自体は終了するが、鉄道沿線の複数自治体が情報共有したり、議論を行う枠組みは貴重であり、何らかの形で残していられることを、勝手ながら希望としてお伝えさせていただく。

瀬口委員長をはじめ、委員各位、オブザーバーの皆様、そして会議を支えてくださった事務局の皆様には、大変お世話になった。今後のリニモ沿線の益々の発展を祈念し、ご挨拶にかえさせていただきます。

○松宮委員

20年近くに渡り大変お世話になったが、この間、委員会での議論で多くを学ばせていただき、大学としてのリニモ沿線地域づくりを進める上で、多くの示唆をいただいた。あらためて感謝を申し上げるとともに、ここでの経験を今後のリニモ沿線地域づくりの実践に生かしてまいりたいと思

っている。

○瀬口委員長

県の交通対策課が中心となって進めてきたが、色々なイベント、プロジェクトについては、県の各部局が参加している。そういう意味では、県全体での対応であったと思っている。それから、沿線市の努力や協力は、住みやすい、何度も来てほしいという視点で自分たちの市の性格を考えると非常に重要なことであり、尽力していただいたと思う。名古屋市については、ジブリパークが開園してからの参加であるが、藤が丘が参加することによって、今までリニモが東側に寄っていたのがぐっと名古屋市に接続したという感覚ができたため、非常によかった。私は、リニモ沿線というのは最初のきっかけは研究学園都市と認識しており、この地域が愛知県の学術研究の中心的な地位を背負ってほしいという期待があった。周辺に11大学があり、地域のことと関わりながら、一方で学術研究という面でも愛知県の産業をリードするとかいろんなものに貢献してほしいなと思っている。そうすることによってこの地域の性格付けがもっと広域的なものになるのではないか。また、最初は、市民から「リニモは空気を運んでいる」と言われたこともあったが、リニモの乗降客数は、皆様方の努力で、今や一日約3万人運んでいる。これは関東に比べるとまだまだ多くはないが、例えば、瀬戸線沿線、日進の地下鉄の沿線や愛環の沿線等を考えていくと、鉄道とまちづくりの一つのモデルになりうる。都市計画である立地適正化計画では、コンパクトに住んで、交通ネットワークで結ぶという視点であり、まさにリニモが実践していることの一つである。そのため、この経験を県の他の鉄道沿線に広げていくと同時に、日本の一つのモデルになるのではないかと考えており、期待している。

長久手市については、西側が区画整理でできた町で、東側が田園地帯である。自然との共生を意図して取り組んできた。リニモ沿線駅前から大体1キロ圏という設定を、皆さんの合意で作っていただいたが、これが土地利用の制限になっていると思う。これが持続していくか。長久手市の全域が市街地化することは今のペースではないが、今後人口が減っていくか横ばいになるとすると、今の自然環境を維持しながら、都市性も維持できるというようにまちづくりが実現できると思う。

【閉会】

○都市・交通局交通対策課長

委員の皆様には、リニモ沿線地域づくり構想及び重点プランの推進に多大なご尽力をいただいたこと、改めて御礼申し上げます。本日いただいたご意見については、今後のリニモ沿線の地域づくりの参考とさせていただきます。また、プランは満了となるものの、リニモ沿線地域の一層の発展、リニモの利用促進に向けては、県及び沿線5市において、東部丘陵線連絡協議会での活動を始め、引き続き連携して取り組んでいくので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。